

【資料3－1】
滋賀県原子力安全対策連絡協議会
令和8年（2026年）2月9日

敦賀発電所の近況について

2026年2月9日
日本原子力発電株式会社

本資料には、日本原子力発電株式会社またはその他の企業の秘密情報を含んでおります。当社の許可なく本資料の複製物を作成すること、本資料の内容を本来の目的以外に使用すること、または第三者に開示、公開する等の行為を禁止します。
日本原子力発電株式会社

本日のご説明内容

敦賀発電所の近況について

- (1)敦賀発電所の概要について
- (2)敦賀発電所1号機の廃止措置状況について
- (3)敦賀発電所2号機の運営状況について

(1)敦賀発電所の概要について

○敦賀発電所1号機【定格電気出力:35.7万kW】



設備概要	1970年 3月	営業運転開始
型式:沸騰水型(BWR)		日本初の商業用軽水炉
燃料:低濃縮ウラン(約52ton)	2015年 4月	大阪で開催された万国博覧会に送電
濃縮度 3.7wt%	2017年 5月	営業運転終了
販売先:関西、中部、北陸		廃止措置着手

○敦賀発電所2号機【定格電気出力:116万kW】



設備概要	1987年 2月	営業運転開始
型式:加圧水型(PWR)		日本初の110kW級 国産改良標準型軽水炉
燃料:低濃縮ウラン(約89ton)	2011年 5月	原子炉手動停止
濃縮度 4.1wt%	2015年11月	新規制基準に係る原子炉設置変更
販売先:関西、中部、北陸	2024年11月	許可申請(2023年8月 補正申請)
	2025年 9月	設置変更許可申請を許可しないことを決定
		設置変更許可申請に向けた追加調査開始

○敦賀発電所3、4号機【定格電気出力:153.8万kW × 2基】

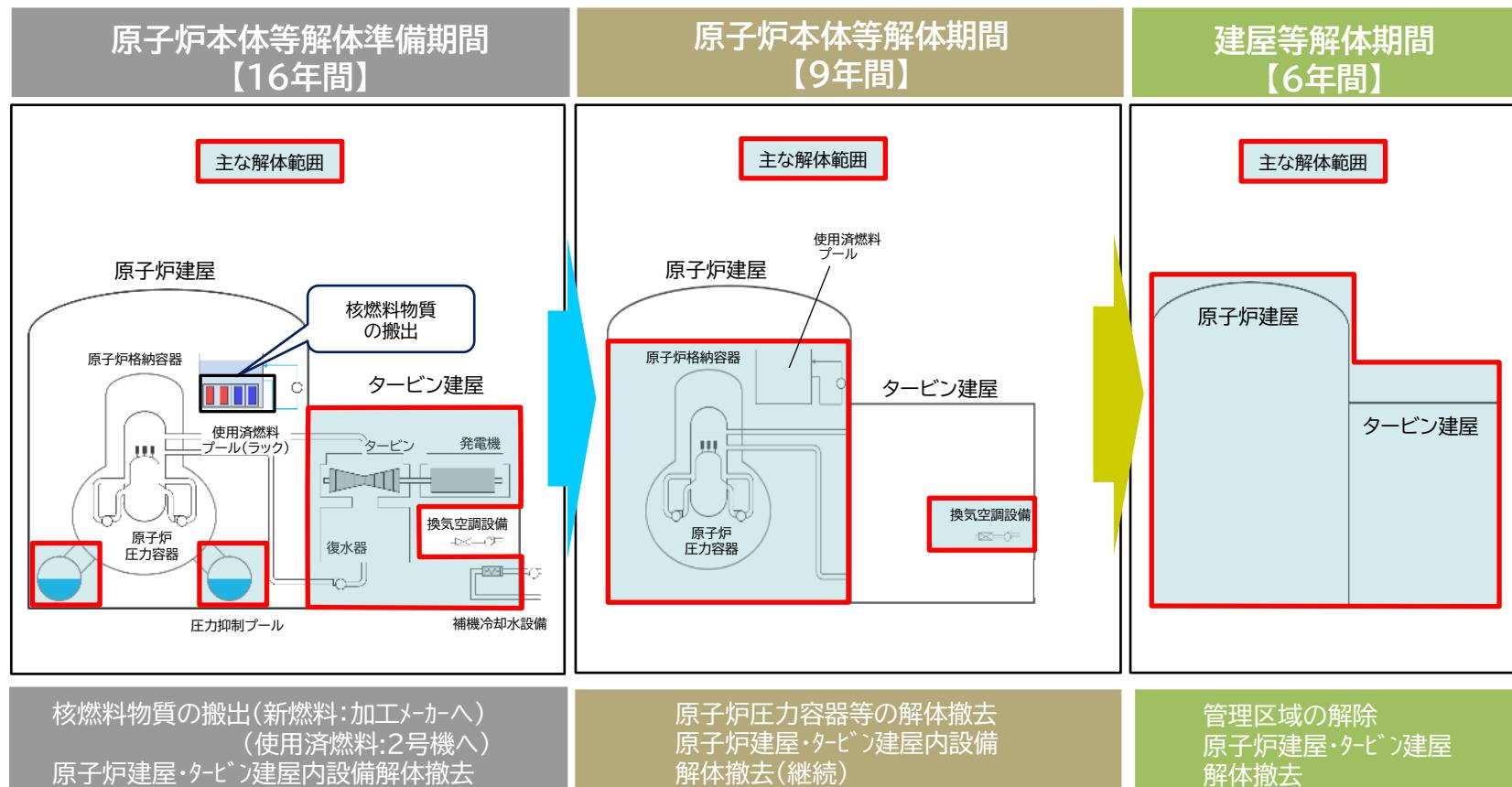


設備概要	2004年 3月	原子炉設置変更許可申請
型式:改良型PWR(APWR)		日本初の改良型PWR
販売先:関西、中部、北陸 (予定)	2004年 7月	建設準備工事開始
	2010年 3月	建設予定地敷地造成終了

(2)敦賀発電所1号機の廃止措置状況について(廃止措置計画の概要)

敦賀発電所1号機の廃止措置工程は、3段階に分け31年をかけて行い、放射能レベルの低い領域から解体を開始します。特に放射能レベルの高い原子炉本体等の領域は、放射能が時間と共に弱くなる性質を利用し、放射能レベルが下がってから解体を行います。

具体的には、原子炉建屋内から燃料を搬出後、原子炉本体の解体を行い、その後建屋を解体し更地にします。

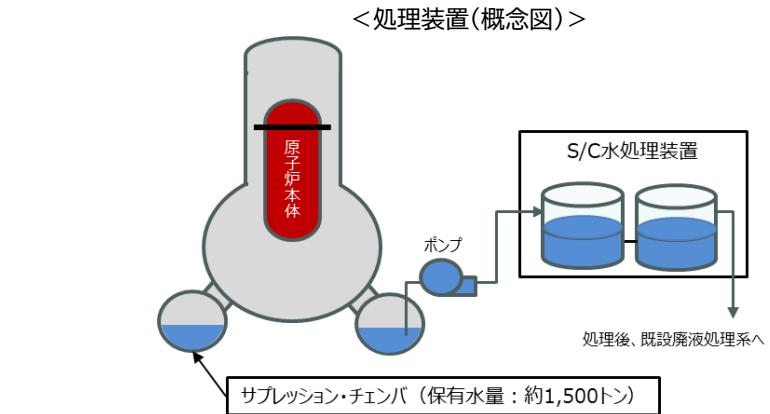
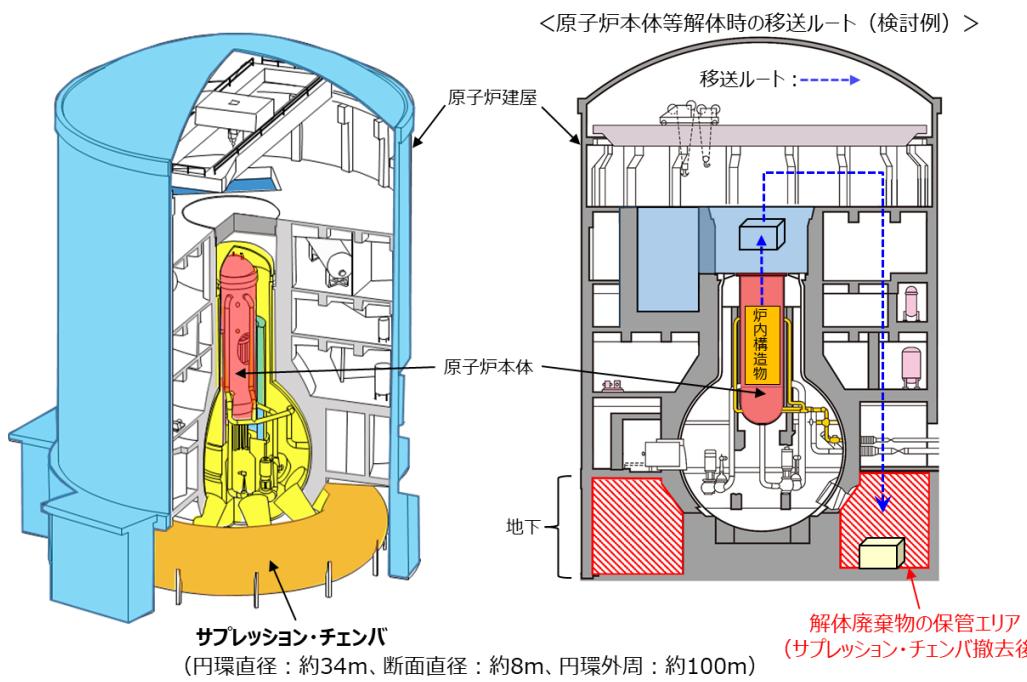


(2)敦賀発電所1号機の廃止措置状況について(廃止措置計画の変更)

現在、原子炉本体等解体に干渉する施設の解体を行っています。

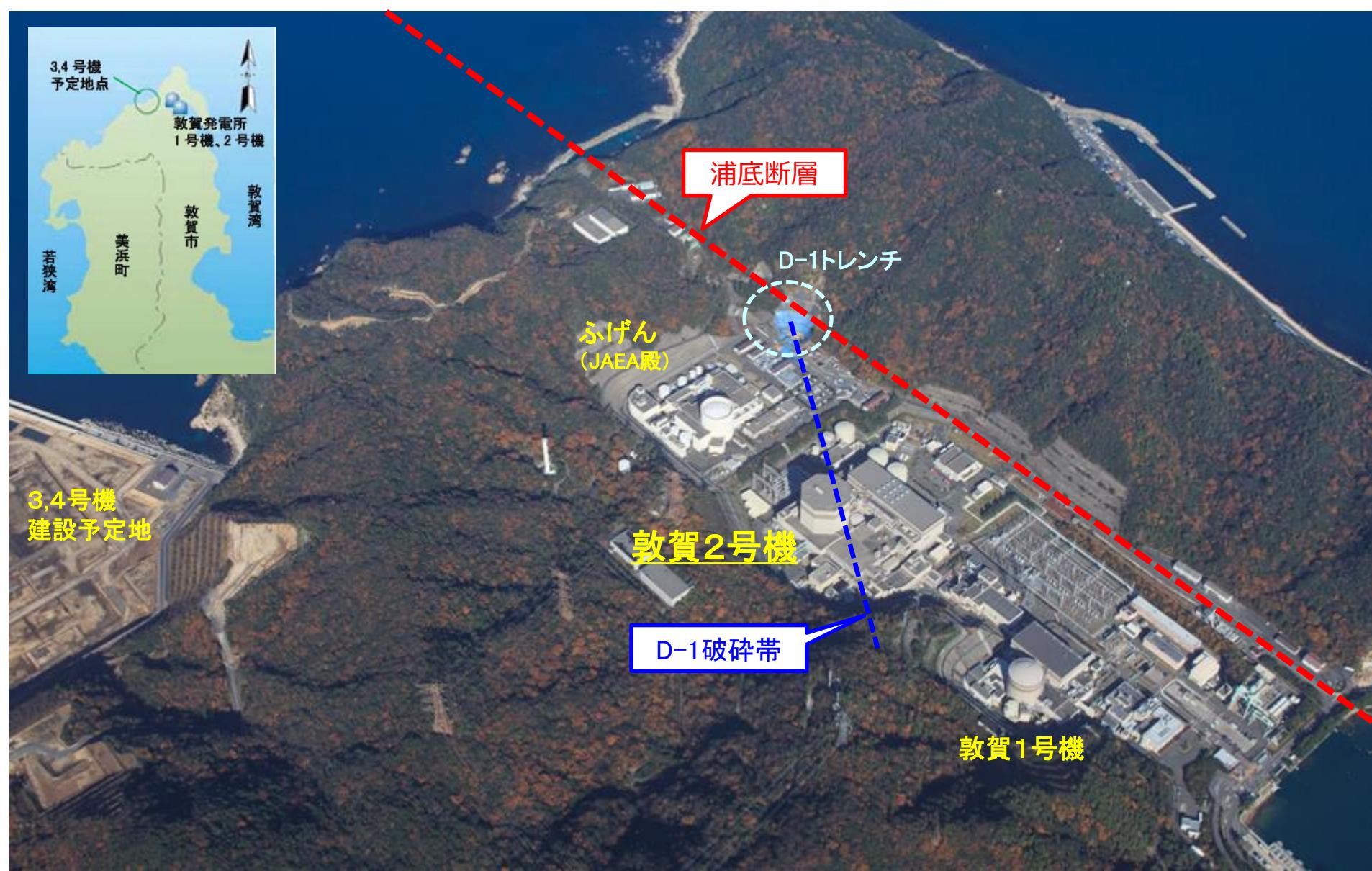
2026年度から原子炉本体等の解体を予定していましたが、解体廃棄物を保管する予定のエリアにあるサプレッション・チェンバの解体に、7年程度を要することから、原子炉本体等の解体着手を2033年度に延期することとしました。

このため、2025年5月19日、1号機の廃止措置完了時期を2040年度から2047年度に変更(7年延期)することとし、廃止措置計画の変更届を原子力規制委員会に提出しました。



<処理及び解体工程(検討例)>										
年度	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032
工程	原子炉本体等解体準備期間 (変更後)									7年延長
設計・製作等	概念設計等									設計・製作等
水処理	水処理									水処理
解体撤去等	解体・撤去等									解体・撤去等

(3)敦賀発電所2号機の運営状況について(敦賀発電所の敷地内破碎帯の位置)

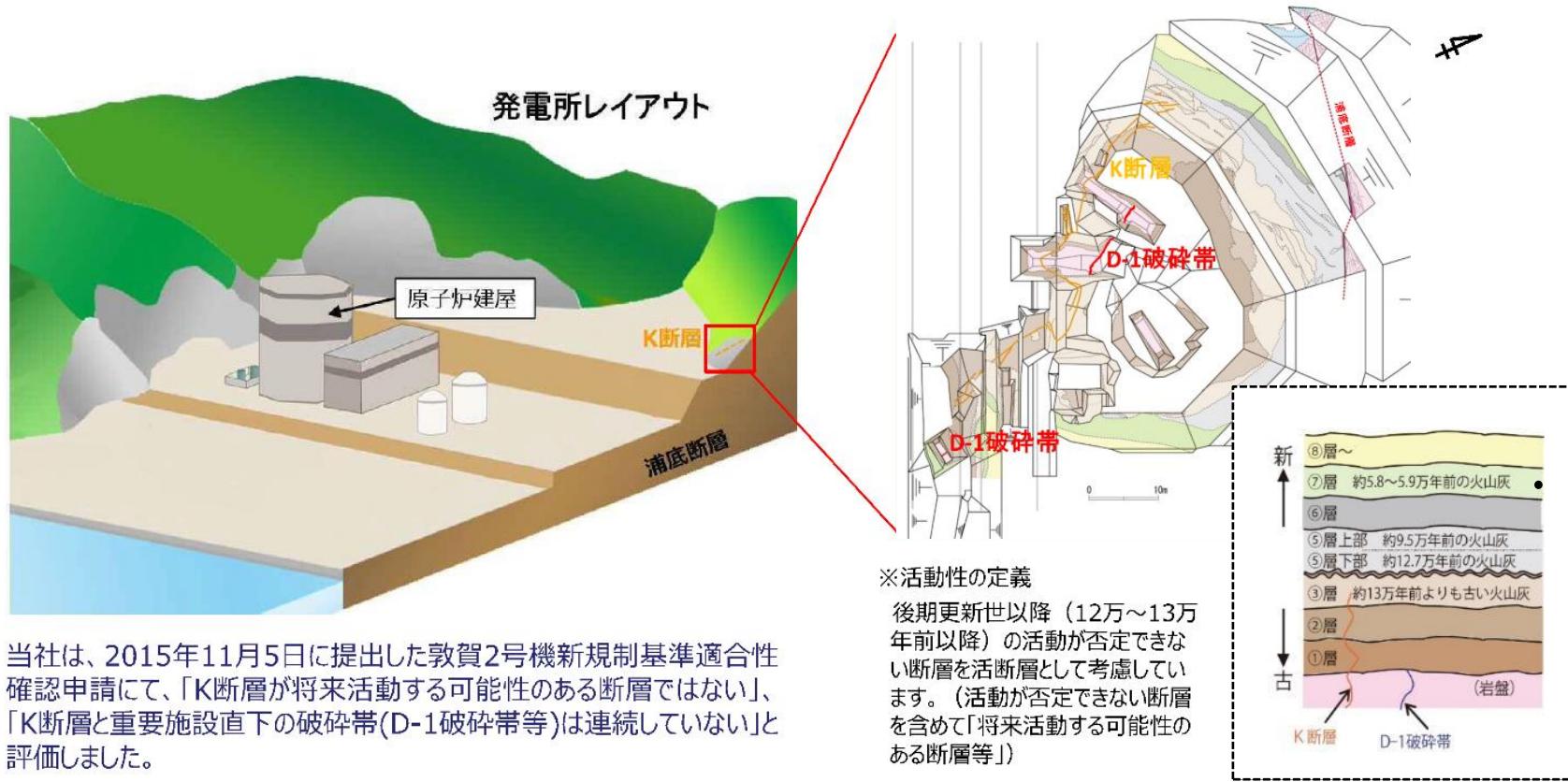


(3)敦賀発電所2号機の運営状況について(安全審査対応の状況について)

【原子力規制庁の確認結果等】

- ・K断層の活動性評価について、③層の堆積年代が後期更新世以降である可能性が否定しきれていないこと等から、活動性を否定する地点として妥当とはいえない。
- ・K断層の連續性評価について、事業者が設定した敷地の破碎帯の連續性評価基準では、地質観察による調査結果の精度や信頼性を考慮した安全側の判断が行われているとはいえない。

⇒2024年11月13日 原子力規制委員会にて許可をしないことを決定



当社は、2015年11月5日に提出した敦賀2号機新規制基準適合性確認申請にて、「K断層が将来活動する可能性のある断層ではない」、「K断層と重要施設直下の破碎帯(D-1破碎帯等)は連続していない」と評価しました。

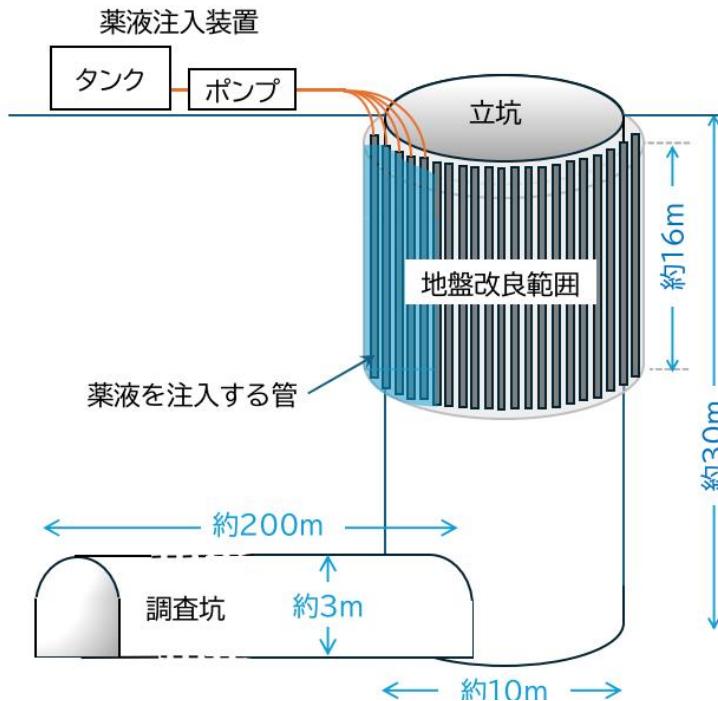
(3)敦賀発電所2号機の運営状況について(追加調査計画の概要)

現在、現地における追加調査を行っています。
引き続き、安全確保を最優先に調査を進めてまいります。

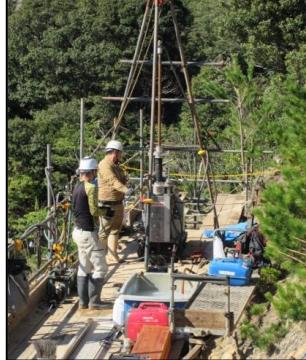
項目	調査目的	調査位置・概要		実施状況
1	K断層の分布と性状	K断層の岩盤及び深部での分布や性状を確認し、その特徴を詳細に把握	(1)	K断層が屈曲している箇所における岩盤までの掘削や、D-1トレーニングの地下深部までのボーリング調査を行う。
2	K断層の活動性	K断層の活動年代を特定するための地質データを更に拡充	(2)	<ul style="list-style-type: none"> D-1トレーニングの北西法面のボーリング等による地質の詳細調査を行う。 ふげん道路ピットの上載層から採取したブロックの内部構造をCTで確認する。
3	K断層の連続性	K断層の連続性の有無を、従来のボーリングデータによる評価に加え、岩盤面において直接確認	(3-1)	ふげん道路ピットを岩盤まで掘削し、K断層が南方に連続していないことを直接確認する。
			(3-2)	ふげん道路ピットから敦賀発電所2号機原子炉建屋側への延長部において、調査坑によるK断層の追跡調査を行う。
4	その他の破碎帯等	K断層が重要施設の直下まで連続していないことを確認するとともに、敷地全体の破碎帯等の地質データを取得	(4)	原子炉建屋周辺の地質、破碎帯の性状、原子炉建屋直下の破碎帯の活動性、その他の破碎帯の分布、活動性等について、ボーリング調査、調査坑による調査を行う。

(3)敦賀発電所2号機の運営状況について(追加調査計画の実施状況)

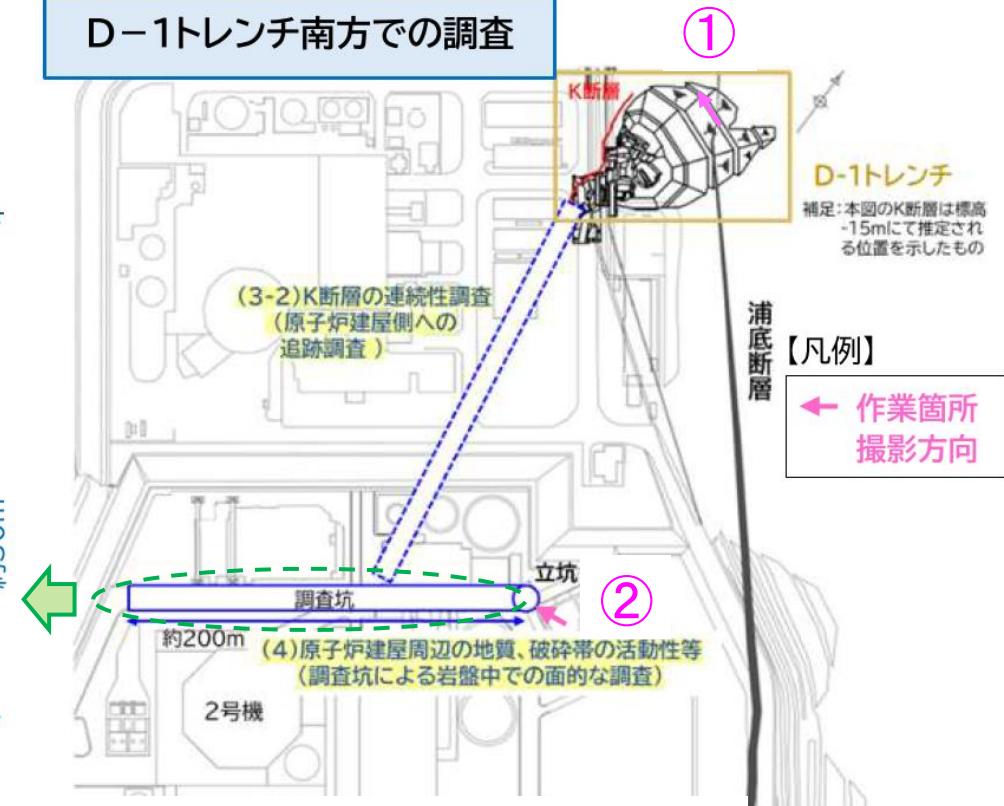
地盤改良イメージ図



①D-1トレーナー北西法面でのボーリング



D-1トレーナー南方での調査



②調査坑(立坑)周辺の地盤改良作業

